

## 本校生徒が新聞（2紙）で紹介されました

学校ネットトピックス H281208 版をご覧になっていただけましたでしょうか。そちらで紹介させていただきました、國學院大学主催の「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」で、本校3年生の吉田真菜さんが優秀賞をいただいたことが新聞に採りあげられました。

平成29年1月6日（金）朝日新聞朝刊

尾張版

許諾番号 A16-2315

「祖父江の虫送り」の研究  
伝承文化コンで最高賞

「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」で優秀賞に選ばれた吉田真菜さん（稲沢市祖父江町）侯高西の杏和高校

本校状  
「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」で優秀賞に選ばれた吉田真菜さん（稲沢市祖父江町）侯高西の杏和高校

稲沢市祖父江地区に伝わる「祖父江の虫送り」の研究を続けている県立杏和高校（同市）3年の吉田真菜さん（17）が、今年度の「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」（国学院大学など主催）の個人部門で最高賞となる優秀賞を獲得した。同校は前回のコンテストでも団体で最高賞を受賞。2年連続の受賞に「まさか今回も選ばれるとは」と喜んでいる。

虫送りは同地区で7月に行われる、豊作を願う行事。わらで作った人形を燃やすなどし、稲につく害虫を追い払う。同校は2014年から生徒有志が行事に参加し、伝承文化の継承について調査を続けている。前回のコンテストでは、最高賞の折口信夫賞と、地域文化研究部門の団体最優秀賞をダブル受賞した。

杏和高3年・吉田さん受賞

「伝統存続 若者の参加がカギ」

吉田さんはその後個人で調査を継続。昨年も虫送りに参加し、論文「続編 祖父江の虫送りを追って3年間の参加で感じたこと」を完成させた。研究では、一昨年と昨年の行事を比較。わら人形の顔の描き方が昔ながらのやり方に戻ったことや、子どもの参加者が増えたことなどを指摘。「伝統は形を変えながらも続いている。存続させるには若い人の参加がカギになる」と提言した。

コンテストには地域文化研究の個人部門に359点の応募があり、吉田さんは優秀賞3点のうちの一つに選ばれた。吉田さんは「年を追うごとに、自分が行事の担い手として参加していると感じられるようになった。卒業しても続けるつもりです」と話している。

（中野恵二）

・そうめん、スパゲティなど乾麺 : ておく)

蟹江町と愛大  
21日連携講座  
男女共同参画で  
蟹江町と愛知大の連  
携講座が二十一日午後

変えながら二〇二二年

表彰状と盾を手に、受賞を喜ぶ吉田真菜さん。稲沢市祖父江町の杏和高で



### 虫送り調査 優秀賞

伝承文化研究 杏和高・吉田さん

高校生の地域文化の三年かけて調査。最高の研究成果を審査する「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」(国学院大など主催)で、稲沢市祖父江町の県立杏和高三年の吉田真菜さん(17)が地域文化研究の個人部門で三百五十九人の中から優秀賞に選ばれた。地元で伝わる祭り「祖父江の虫送り」を

業文化会館(同町城)で開かれる。無料。町が愛大と結んだ協定に基づき、テーマを

とめた。

同校では、二〇一四年から有志の生徒たちが虫送りの行事に参加し、研究を続けてきた。前回のコンテストでは、有志でつくる「郷土研究班」が同団体部門の最優秀賞と全部門最優秀賞の「折口信夫賞」をダブル受賞。吉田さんも班のメンバーの一人で、今回の研究は続編となる。吉田さんは「今年も受賞できるとは思わず、『まさか』とびっくりした。県外の大学に進学するけれど、虫送りには帰って来て参加したい」と笑顔で話した。(花井康子)

といった感じでしたが、今年はどうなるでしょうか?



230	340	610	とこなめポット
200	130	100	17四目
110	120	130	日
150	810	860	
460	1.560	230	
120	210	240	
140	150	210	
150	160	110	
140	260	420	
290	110	390	
190	210	160	
490	170	210	
		1.240	